

## 平成28年度第1回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

### 1 日時

平成28年7月21日（木）10:00～12:00

### 2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

「平成28年産春野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、7月13日開催の消費分科会で出された夏秋野菜の需要見通し等を踏まえた意見交換を行い、「平成28年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」（資料4）について、機構HPで公表することについて各委員の了承を得た。夏秋野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの主な意見は以下のとおり。

#### （1）夏秋キャベツ（7～10月）

##### ① 供給見通し

- ・作付面積は、群馬は前年比102%、長野は100%、北海道は99%。
- ・生育状況は、群馬は、は種・定植以降好天に恵まれ、平年より5日程度早い状況。長野は、当初干ばつ傾向であったが、6月以降の降雨で回復し現在は順調な生育となっている。北海道は、干ばつによる生育遅れも5月の降雨で回復。
- ・出荷開始は、群馬は6月上旬、長野は6月中旬、北海道は7月上旬。
- ・出荷量は、主力となる群馬産で生育が順調となっていることから、7月～10月にかけて前年及び平年を上回る出荷となる見通し。

##### ② 需要・価格見通し

- ・簡便化ニーズの高まりにより、千切りキャベツをはじめとするカット野菜の販売点数が2桁の伸びを示すなど販売拡大が見込めるが、猛暑予想から家庭での加熱調理での需要は減少し、また、大きな野菜は敬遠される傾向もあって1玉売等の販売動向は鈍化することから、昨年並みと見込む。
- ・一部の外食では食味を優先して、サラダ用キャベツがレタスへ変更されるなどメニュー改変する動きも見られる。
- ・昨年の高値を受け、加工業者によっては契約比率を高めている可能性もある。
- ・価格は、主産地において生育が良好で順調な出荷が見込まれることから、価格は、期間を通して昨年を下回る見込み。ただし、関東産の加工品向けの歩留まりが良く荷余り感はあるものの、関東産が終了すれば安定した相場になる可能性はある。

#### （2）夏だいこん（7～9月）

##### ① 供給見通し

- ・作付面積は、北海道及び岐阜は前年比100%、青森は98%と、昨年に比べ微減。なお、ここ数年では北海道などで、だいこんからにんじん等にシフトしており、だいこんの面積は減少傾向にある。
- ・生育状況は、北海道は、6月中旬以降の降雨の影響では種に遅れが出たほ場があるものの、生育進度は平年並み。青森は、一部の圃場で播種遅れが見られたが、その後の生育は順調。
- ・出荷開始は、北海道で6月中旬、青森で7月上旬、岐阜で6月中旬。

- ・出荷量は、7月～8月上旬は、は種の遅れなどの影響が見られるものの、9月には北海道産の出荷ピークの見込み。全体の出荷量は平年並みの見通し。  
なお、8月については、盆頃に一時的には種の遅れで出荷量が減少することも考えられるが、8月下旬から出荷量が増加してくるので昨年並みを見込む。

② 需要・価格見通し

- 需要期ではないため、家庭用のニーズも1／2切など少量サイズが中心。また、猛暑予想から家庭での加熱調理の必要な野菜の需要は減少するので、需要は前年並と見込む。
- なお、秋頃には、気温の低下に伴い、メニュー提案（おでん等）が順調にいけば伸長も見込める。また、鍋以外にも気温に影響されないメニュー提案の取組をしている事業者も見られる。
- ・業務用については、だいこんサラダなどで需要が高く、契約による確保が全体的に進んでいる印象だが、7月、8月は天候の影響で入荷量が減少し、加工業者等の市場調達の可能性はある。
- ・価格は、7月～8月上旬は、は種の遅れにより入荷量は減少する見込みであることから、7月の価格は前年を上回る見込み。9月は播種作業の遅れ分等が入荷して入荷量が増加するため、前年を下回る見込み。

(3) たまねぎ（7～10月）

① 供給見通し

- ・作付面積は、北海道及び兵庫は前年比100%、佐賀は90%。
- ・生育状況は、北海道は、定植作業が平年より早く進んでおり、7月上旬は天候不順となっているものの出荷開始は平年よりも早い見込み。佐賀は、病害の発生による不作傾向となっている。兵庫は、定植作業は順調に進んだが一部で病害の発生が見られるほ場がある。
- ・出荷開始は、北海道の極早生種が8月上旬、佐賀の中晩生種が5月下旬、兵庫の中手種が5月下旬。
- ・出荷は、病害の発生により、府県産が不作傾向のため、7月の数量は少ない見込み。8月以降は北海道産の出荷が本格化するが、7月上旬の天候不順により、豊作であった前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・7～8月は府県産の不作、輸入ものの高騰で苦しい見込み。こうした中でも、サラダ需要は夏期間も堅調なことから、昨年並みと見込む。
- ・外国産については、アメリカ産から中国産へ輸入先をシフトする傾向や、中国産を避け、ニュージーランド産やオーストラリア産を仕入れる動きが見られる。
- ・加工業者は、昨年の北海道産の安値もあって国産志向は強いものの、今年の府県産が不作により高値で、量販店等からの引き合いも強く、様子見の傾向。
- ・価格は、7月～8月は、府県産の病害の発生により入荷量が大幅に減少し、価格は前年を上回る見込み。9月以降は北海道産の入荷が本格的に始まるため、価格は前年並みの見込み。

(4) 秋にんじん（8～10月）

① 供給見通し

- ・作付面積は、北海道は前年比103%、青森は97%。
- ・生育状況は、北海道は、6月の天候不順によりは種作業が遅れ、生育は平年に比べ5日程度遅く、地区・ほ場間に差がある。青森は、春播き作の生育は順調ながら、夏播き作では、6月の降雨では種の遅れが見られる。
- ・出荷開始は、北海道で7月中旬、青森が7月上旬。

- ・出荷量は、8月上旬までは少ないと見込まれるものの、その後は北海道の産地が出そろうことや面積が増加していることから、出荷量は増える見通し。全体の出荷量は平年をやや上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・需要増の要因はないが、北海道産の生育が良好で、秋口にはじゃがいも・玉ねぎを含め供給が安定化し調理メニューも広がることから需要は昨年並みを見込む。
- ・中国産が近年になく安値となっているにもかかわらず、国内需要としては引き合いは弱い。
- ・価格は、8月上旬までは北海道産がは種の遅れにより入荷量が減少するものの、その後は産地が出そろい入荷量が増加することから、価格は前年を下回る見込み。9月以降は、6月のは種作業に遅れが見られた地区があるものの概ね順調な入荷が見込めることから、価格は前年並みの見込み。

(5) 夏はくさい（7～9月）

① 供給見通し

- ・作付面積は、長野は前年比104%、北海道は100%、群馬は99%。
- ・生育状況は、長野は定植後の生育が順調に進み、各作型で前進傾向となっており、今後も安定した出荷が見込まれる。北海道は、6月中旬以降の天候不順により生育停滞が見られたが、7月に入ってから回復基調。群馬は定植後に適宜降雨があり、生育は順調となっている。
- ・出荷開始は、長野で5月下旬、北海道で7月上旬、群馬で5月下旬。
- ・主力となる長野産は、生育の前進および大玉比率が高くなっているため、現在、前年を上回る出荷が続いている。8月以降の出荷分についても同様に順調な出荷が見込まれる。

② 需要・価格見通し

- ・夏場の需要減に対して、鍋物需要がある9-10月は気温次第ではあるが、昨年並の需要を見込む。また、鍋以外にも気温に影響されないメニュー提案の取組をしている事業者も見られる。
- ・家庭での需要は減少。漬物等加工原料用は回復を予想。
- ・漬物業者は、ここ数年の高値を受けて契約取引を増量する動きにあるが、生産サイドは契約取引を減らす傾向にあり、今年の契約率はメーカーによって大きく異なる傾向にある。
- ・価格は、7月～9月は、前年の高値を受けて主産地において作付け意欲が旺盛で作付面積が前年に比べ増加していることに加え、天候にも恵まれて生育は順調で大玉傾向であることから、価格は前年を下回る見込み。

(6) 夏秋レタス（6～10月）

① 供給見通し

- ・作付面積は、長野及び群馬は前年比99%、茨城は102%。
- ・生育状況は、長野は6月下旬の降雨で生育が進み、出荷ペースが早まった。7月も適度な降雨があり、生育は順調に進んでいる。群馬も長野と同様、生育は前進傾向となっている。茨城は、は種開始は8月5日前後、定植は盆明けを見込む。
- ・出荷開始は、長野で6月中旬、群馬で6月上旬、茨城で10月上旬。
- ・主力となる長野産は生育が前進傾向で、今後も安定した出荷が見込まれる。天候次第ではあるが、期間を通して平年を上回る出荷量となる見通し。

② 需要・価格見通し

- ・猛暑予測からサラダメニューの需要が増加し、また、カット野菜の消費拡大も進んでいることから、需要は昨年に比べ増加と見込む。
- ・ただし、ニーズの多様化でリーフ系やロメイン等に需要が分散する傾向が見られる。例えば、

加工業者は、結球レタスの需要が大半を占めるが、生産者は結球レタスよりも作りやすい非結球（リーフ系）へシフトする動きが見られる。

- ・産地の意向により前年より加工契約数量が減少している。
- ・価格は、作付面積が前年並みとなる中、生育は良好で出荷が前年に比べ増加することから、価格は前年を下回る見込み。